

シラバス

授業・単位数	教職入門	2 単位	学年・学期	1 年 ・ 前学期
担当教員	○須賀 朋子			
授業概要	職業としての教職あるいは教員免許の取得を志望する者は、今日の学校教育の諸課題を踏まえ教職の意義、教員の役割職務内容について考察する中で、教職に就くために必要とされる資質、適性について理解を深めるとともに、教員免許の取得に必要な知識・技能の土台を形成することを目的とする。			
到達目標	1. 講義を通じて、教員として採用されるまでの道のりを解説することで、教職を目指す者の進路イメージの明確化を図る。 2. 教職の意義、教員の役割、教育の職務内容に関する教育職員に必要とされる基礎的な知識の獲得を目標とする。			
授業計画	①教職とは何か ②教師をめざすために ③教師に必要とされる心構え ④教師の仕事—生徒指導を通して子どもとどうかかわるか— ⑤学校と教師の意義・やりがいについて ⑥教員になるまでの道のりと勤務形態・採用形態 ⑦教育公務員の特徴—研修・服務・身分 ⑧様々な学校と子どもの現状 ⑨力量ある教員とはなにか—分かりやすい授業を求めて— ⑩教える技術1 黒板の使い方 ⑪教職課程移行ガイダンス ⑫教える技術2 授業案とはなにか ⑬教える技術3 授業案の作成 ⑭多様な子どもたちとどう向き合うか ⑮まとめと最終試験			
成績評価	毎時間の小レポート・各種課題 (40%)、最終試験〔論述式〕(60%)			

授業・単位数	教職概論	2 単位	学年・学期	3 年 ・ 前学期
担当教員	○安宅 仁人			
授業概要	この授業は、現実の教師の姿、教育現場を取り巻く諸問題、さらには学校と学校外のネットワークとの関係を学ぶことを通じて、社会における学校と教師の職務の全体像を把握することを目的とする。			
到達目標	社会における教師、学校の役割や全体像を俯瞰して理解することができる力を養成する。また、教育現場における個々の課題がそれぞれ有機的に関連を持っていることを理解することで、実際に教育職員になった際に必要とされるネットワークの重要性を認識することを目指す。			
授業計画	I. 総論 ①授業ガイダンス 履修カルテの記入と学習の振り返り II. 学校と教師 ②教育を受ける権利と公教育制度 ③教育委員会制度と学校の運営 ④教育財政と教員配置 ⑤開かれた学校づくりを考える ⑥特別講話—現職教員に聞く— ⑦教師に必要とされるプレゼンテーション力 III. 学校と生徒・家庭支援 ⑧教師と生徒指導—ハラスメントのない学校づくりを考える— ⑨ハラスメントを防止するために—ロールプレイング— ⑩教師としてマイノリティの生徒とどう関わるか ⑪いじめ・不登校、多様な生徒との関わりと対応 ⑫スクール・ソーシャルワークとは何か (特別講話) IV. 教師と危機管理 ⑬保護者、地域と学校—ロールプレイングで考える保護者対応 ⑭教師と危機管理—学校現場における救急救命 ⑮各課題の整理と全体の振り返り 最終試験			
成績評価	適宜出題する課題への取り組み (30%)、最終試験 (70%)			

授業・単位数	教職特論（＊）	2 単位	学年・学期	2 年 ・ 後学期
担当教員	○岡島 毅、玉利 和弘、山田 大隆			
授業概要	学校、教員、生徒、保護者などの学校教育の現状と課題、解決の方策、さらに教育行政の施策などについて、系統的かつ実践的に学習するとともに、教育目標を達成するために効率的な学校経営の在り方について、学校現場での実践なども取り入れて具体的に学習する。			
到達目標	学校経営の視点に立って学校運営や学級経営、学習指導、生徒指導、進路指導など、学校教育の現状と課題、新たな施策などについて、バズセッションなども織り交ぜて授業を展開し、豊かな人間性と確かな専門性を身に付けるとともに、学校現場などで活躍している教員による講話と質疑応答も交えながら学習を進め、実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。			
授業計画	<p>1 ガイダンス、生徒指導論および学習指導論 ①ガイダンス、生徒の生活実態の把握、文科省「生徒指導提要」による生徒指導の在り方 ②生徒指導における人権教育・危機管理 ③「確かな学力」を育む施策と実践 - 国際的、全国的な学力等調査結果を踏まえた学習指導の在り方 ④「新しい学力観」に基づく学習指導の在り方 - 学ぶ意欲を喚起するための授業改善、アクティブ・ラーニングの手法など ⑤実践的講話「中学校又は高等学校における生徒指導および学習指導の実践と課題」(外部講師など)</p> <p>2 進路指導論、キャリア教育論 ⑥若年者雇用をめぐる状況 - 中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」など ⑦キャリア教育・職業教育の在り方 (1) - 「中学校キャリア教育の手引き」(文科省) など ⑧キャリア教育・職業教育の在り方 (2) - 「高等学校キャリア教育の手引き」(文科省) など ⑨全国的な諸調査における中学校・高等学校における進路指導の現状と課題 ⑩実践的講話「中学校・高等学校における進路指導・キャリア教育の現状と課題」(外部講師など)</p> <p>3 学校経営論および総まとめ ⑪学校及び教員に求められるもの ⑫学校経営とは 教育目標を効率的に達成する条件整備・学校評価 ⑬新たな学校経営の在り方：地域とともにある学校(コミュニティスクール) ⑭実践的講話「学校経営の使命と戦略～校長の経営方針～」(外部講師など) ⑮学級経営の在り方：学級担任の職務 総まとめ 学期末試験</p>			
成績評価	期末試験(60%)及び小テスト・課題レポートや意見発表など授業態度(40%)をもとに総合的に評価する。これら評価項目すべてが良好であるとともに出席条件を満たし、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。			

授業・単位数	教育原理	2 単位	学年・学期	1 年 ・ 後学期
担当教員	○安宅 仁人			
授業概要	<p>教育の原理とは何か? - その「目的」と「しくみ」を探る -</p> <p>教育とは、どんなことを目指し、どんな人たちを対象にしたものなのか。</p> <p>本講義を通じて、教育がどのような「理念」と「しくみ」の中でどう機能しているのかを、日本および世界の事例を通じて確認していく。講義を通して以上のような知識を身につけ、教育関係職員を目指す際に必要とされる資質と能力を養うことを目指す。</p>			
到達目標	①教育職員として必要とされる教育の歴史と制度、子どもを取り巻く環境の変化についての知識を獲得する。 ②教育問題を批判的に検討し、子ども達が直面している困難の背景にある課題を発見する。 ③講義で取り扱うそれぞれのテーマ同士が繋がっていることを認識する。			
授業計画	①授業の目標と計画及び成績評価について ②遺伝・環境をめぐる教育思想 ③子どもの成長・発達をめぐる理論 ④子どもの発達と学力 ⑤特別なニーズをめぐる教育 ⑥学校といじめ・不登校⑦フリースクールと教育 ⑧いろいろな教師像-映像から見る学校と教師1-⑨いろいろな教師像-映像から見る学校と教師2- ⑩体罰を防ぐ学校づくり ⑪子どもの生活環境・階層と学力問題 ⑫子どもの権利とは何か ⑬憲法と教育 ⑭教育基本法と教育委員会制度 ⑮まとめ、最終テスト			
成績評価	成績は次の2つの内容に基づき、それぞれの割合で評価する。 ①小テスト(毎回の授業)、ワークシートの提出…30% ②最終試験…70%			

授業・単位数	教職応用演習Ⅰ（＊）	2単位	学年・学期	3年 ・ 前学期
担当教員	○玉利 和弘、安宅 仁人、大西 千郷、岡田 正裕、岡島 毅			
授業概要	この講座は、教育の基礎理論に関する科目の一つとして、教育の理念、児童・生徒の心身の成長・発達、教育に関する社会的・制度的又は経営的事項、並びに教科等指導法に関する基礎・基本を学習する。常に、教職に就くことを見据え、学校教育の現状を踏まえながら展開する。授業は、「教職教養」、「教科教育法」に関する配布資料や参考図書などに基づく一斉講義により、教員としての知識・技能の定着を図るとともに、グループ別及び個別の課題発表や模擬授業、意見交換なども随時実施しながら、教職における実践力や応用力を培う。			
到達目標	教育の目的や方法、児童・生徒の成長・発達、教育の制度、学校の管理・運営、並びに教科等指導法に関する基本的な知識・技能を習得するとともに、教職とりわけ中学校及び高等学校における具体的な教育・指導の実践力・応用力を身につける。			
授業計画	<p>第1回 講義ガイダンス： 教職応用演習Ⅰの概説、授業計画、評価の説明等</p> <p>◎第2回 教科等指導法(1) 学習指導要領総則解説</p> <p>第3回 教育の理念(1) 教育の基本理念、教育の意義と目的・目標</p> <p>◎第4回 教科等指導法(2) 学習指導要領教科解説</p> <p>第5回 教育の理念(2) 教育の中立性、学校教育の目的・目標</p> <p>◎第6回 教科等指導法(3) 教科書研究1</p> <p>第7回 教育の理念(3) 教育方法、教育内容と教育課程</p> <p>◎第8回 教科等指導法(4) 教科書研究2</p> <p>第9回 教育の理念(4) 学校教育と家庭教育・社会教育</p> <p>◎第10回 教科等指導法(5) 教科書研究3</p> <p>第11回 教育の理念(5) 児童生徒の発達の理論及び学習の理論</p> <p>◎第12回 教科等指導法(6) 教科指導法1</p> <p>第13回 教育の理念(5) 児童生徒の発達の理論及び学習の理論</p> <p>◎第14回 教科等指導法(7) 教科指導法2</p> <p>第15回 教育時事(1) 中央教育審議会の答申</p> <p>◎第16回 教科等指導法(8) 指導案作成・模擬授業1</p> <p>第17回 教育時事(2) 教育再生会議の報告</p> <p>◎第18回 教科等指導法(9) 指導案作成・模擬授業2</p> <p>第19回 教育の歴史(1) 世界教育史</p> <p>◎第20回 教科等指導法(10) 教材研究開発1</p> <p>第21回 教育の歴史(2) 日本教育史①</p> <p>◎第22回 教科等指導法(11) 教材研究開発2</p> <p>第23回 教育の歴史(3) 日本教育史②</p> <p>◎第24回 教科等指導法(12) 学習指導案作成法1</p> <p>第25回 教育法規・制度(1) 教育法規の法体系と憲法・教育基本法</p> <p>◎第26回 教科等指導法(13) 学習指導案作成法2</p> <p>第27回 教育法規・制度(2) 学校・学校教育に関する法規、児童・生徒に関する法規</p> <p>◎第28回 教科等指導法(14) まとめ・教科指導法学期末試験</p> <p>第29回 教育法規・制度(3) 教職員に関する法規、教育行政に関する法規など</p> <p>◎第30回 まとめ演習 中央教育審議会や教育課程審議会等の答申、教育の諸問題に関する報告・通知、教職教養学期末試験</p>			
成績評価	学期末試験（60％）及び小テスト・課題レポート（20％）、授業態度（20％）をもとに総合的に評価する。これら3項目がすべて良好であるとともに出席条件を満たし、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。			

授業・単位数	教育心理学	2単位	学年・学期	1年	後学期
担当教員	○須賀 朋子				
授業概要	心理学が人間の認識、理解機能を科学的に解明する研究分野であるように、教育心理学も科学的方法がとられる。どのような方法があるのか、どのようにデータを分析するのか、結論として主張できることとできないことの区別をどのようにするのか、ということをつねに意識して授業を進める。教育の分野でも科学的な研究方法を利用できること、それを知らないと危険であることを知ってもらいたい。				
到達目標	①教育心理学の基本的知識である発達、学習、記憶、動機づけについて理解できる。 ②知能、発達検査が理解できる。				
授業計画	<p>①発達の仕組みに関する論争：発達とはなにか、経験説と遺伝説の対立について、それぞれを支持する実験結果などを紹介する。発達の仕組みについての考え方を考えることになった現象として発達の加速化現象、初期経験、臨界期、母子関係、初期学習を紹介する。</p> <p>②現代の発達理論 - 発達段階説 -：現代の代表的な発達理論であるフロイトの人格発達理論、ピアジェの知能発達理論、社会的発達理論を紹介する。</p> <p>③発達の諸相：人間の発達の特徴を知的側面、情緒面、社会性の面から紹介する。</p> <p>④知識の習得 - 記憶過程と言語理解 -：情報処理としてみた記憶と言語理解過程について、短期記憶と長期記憶の分類、その相互作用を紹介する。言語理解、談話理解モデルの紹介と、文章理解の促進方法に関して紹介する。</p> <p>⑤行動の習熟 - 自動化過程 -：運動技能や知的作業の習熟および自動化の過程について紹介する。</p> <p>⑥行動の形成 - 条件づけ学習の仕組みと展開 -：パプロフ型条件づけとオペラント条件づけの仕組みと代表的な実験例、相互関係、現実場面への適用例を紹介する。</p> <p>⑦行動の形成 - 観察学習 -：観察学習は行動による試行を伴わない学習のモデルである。その仕組みと現実場面への適用例を紹介する。</p> <p>⑧動機づけ - 基礎と学習への適用 -：動機づけの分類、理論的分析および実験例を紹介する。授業場面で動機づけを高めるための工夫を紹介する。</p> <p>⑨授業方法：授業方法は、講義法、討議法、問題法、プロジェクト法と多様であり、その特徴を紹介する。機械を利用した授業方法のプログラム学習とCAIについて説明し、その特徴、利点、欠点を論じる。</p> <p>⑩個人差と授業の最適化：学習面での個人差は認知スタイル、学習スタイルと呼ばれる。個人差のある学級集団で授業を行うさいの授業内容の最適化方法をいくつか紹介する。</p> <p>⑪知能の構造と測定：知能の構造の因子モデルを説明する。代表的な2種類の知能テストの利用方法、結果の分析方法について解説する。</p> <p>⑫知能の発達と学力：個人内での知能の変化、学業不振児の問題、精神遅滞の現象、生活環境比較や国際比較により知能の仕組みを理解する。</p> <p>⑬学力評価と学力検査：授業における評価の目的や利用について解説する。客観的学力テストと論述式学力テストの作成のさいの注意を説明する。</p> <p>⑭性格理論と性格テスト：性格の分類の考え方を類型論と特性論に分けて紹介する。精神分析理論や学習理論、自己理論の考え方にもふれる。性格検査を質問紙法、投影法、作業法に分類し、各種の性格検査の仕組みと検査方法、評価方法および利用の限界について解説する。</p> <p>⑮適応障害：精神的ストレスとそれに起因する適応障害について、その原因、診断および指導について紹介する。</p> <p>定期試験</p>				
成績評価	本試験、追・再試験				

授業・単位数	特別支援教育論	2 単位	学年・学期	2 年 ・ 前学期
担当教員	○須賀 朋子			
授業概要	<p>教員を目指す学生が特別支援教育についての知識を学び、障がいがあるために支援を必要とする児童生徒に対応できる基本的な力を身につける内容とした。①障がいとは何かについて学ぶ。②それぞれの障がいがあるようなものかについて幅広い知識を得ると共に、障がいを有する生徒等が学ぶ場（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室）でどのような指導が行われているのかを理解する。③通常の学級（いわゆる普通学級）で特別なサポートが必要な子どもに対する指導の基本的な考え方を知り、そのようなケースに対応する知識を得る。</p>			
到達目標	<p>①各障がいについての基本的な特徴や指導方法などを理解できる。②特別支援教育を行う様々な場（学校・学級等）での実践的な教育方法を理解できる。③医療・福祉・労働などの機関との連携や家庭との連携が理解できる。</p>			
授業計画	<p>①オリエンテーション ②障がいとは何か(言語障がいの例から考える) ③障がい児教育の歴史・制度(無の状態から特殊教育へ、そして特別支援教育へ) ④検査法について(知能の測定と判断について) ⑤知的障がい(1) 知的障がいは、個人の努力で克服すべきことか ⑥知的障がい(2) 知的障がい児のための特別支援学校について ⑦知的障がい(3) 高等養護学校の教育について ⑧自閉症(1) 発見と多くの病因論・治療理論・教育論について ⑨自閉症(2) 自閉症の成人記録から、自閉症のイメージをつかむ ⑩自閉症(3) 自閉症について、どのような支援が望ましいのかを学ぶ ⑪発達障がいについて(高機能自閉症・学習障がい・注意欠陥多動性障がいについて) ⑫肢体不自由について ⑬病弱障がいについて ⑭視覚障がい、聴覚障がいについて学ぶ ⑮まとめ(障がいの有無と人間としての尊厳を再度考える)、試験</p>			
成績評価	<p>まとめの試験を行なう(60%) 不定期に意見や感想をミニレポートで提出するよう求める(40%)</p>			

授業・単位数	教育社会学	2 単位	学年・学期	3 年 ・ 後学期
担当教員	○佐々木邦子			
授業概要	<p>この科目は、教育職員免許法第5条別表1で取得が義務づけられた教職専門科目の一つとして、同法施行規則第6条別表1で必修分野とされた「教育に関わる社会的、制度的または経営的事項」に対応している。教育も社会的背景により変遷を遂げている現状からは、他の分野との関連で教育を考える視座の重要性が看取される。したがって、この講義では狭義の教育社会学を中心としながらも、戦後日本における学校組織、労働市場、地域社会などからの影響について広く社会と教育を関連付け、特に、弱い立場の人々の教育と職業を中心に考察を深める。その例として、高学歴社会といわれる今日であっても、なお中等教育を求めて夜間中学校で学習する成人の姿を基に、公教育や生涯学習の役割についても言及したい。</p>			
到達目標	<p>①教育制度の歴史や現状について、法令や統計資料などを基に理解できる。 ②教育の意義や課題について、職業との関連で理解し説明することができる。 ③現代社会における教育の問題について、広い視野から捉えることができる。</p>			
授業計画	<p>①講義の進め方。「教育社会学」で何を学ぶか。 ②戦後教育制度改革の理念(日本国憲法の教育に関する条項、児童憲章、児童権利条約について) ③経済社会の進展による教育機会の向上(進学率上昇の統計的推移とその社会的背景) ④高度経済成長が教育に及ぼした影響(子どもと青年の心身の発達をめぐる教育問題の変遷) ⑤地域社会における学校の位置づけ(山村・漁村小規模地域での学校、複式校の教育) ⑥地域社会における学校の位置づけ(山村・漁村小規模地域での学校、複式校の教育) ⑦現代社会における教育の諸相(1) (中等教育の現状と課題) ⑧現代社会における教育の諸相(2) (高等教育拡大にみる課題、M・トロウモデルから) ⑨小活。中間課題を実施 ⑩産業社会における教育の意義(若年労働市場をめぐる課題) ⑪教育が職業選択に及ぼす影響(職業教育の是非をめぐる論点の整理) ⑫外国人の子どもたちの学習機会(外国人集住地域の教育事情) ⑬人々の学習における公教育の役割(夜間中学校で学ぶ人々の群像) ⑭生涯学習社会における成人の多様な学び(リカレント学習、NPO 活動、ボランティア) ⑮総括。これまでの講義の補足 定期試験</p>			
成績評価	<p>中間課題など30%、期末試験70%</p>			

授業・単位数	生涯学習論	2単位	学年・学期	3年	後学期
担当教員	○安宅 仁人				
授業概要	近年、進学率の上昇や在学年限の延長さらには高齢化の進行に伴って、人々の学習に対する要望はかつてない高まりを見せている。また、社会の多様化・複雑化に伴い、学校教育だけでは対応しきれない状況が生じており、学校卒業後の教育や学習の果たす役割も大きなものとなっている。講義では、生涯学習の理念と動向についての解説を通して、人々の暮らしの中で生涯学習が果たす役割の重要性と可能性について検討する。				
到達目標	①わが国並びに諸外国の生涯学習制度の概要と歴史的な展開を理解する。 ②生涯学習の概念の重要性と多様性を実感する。 ③生涯学習社会において教育関係職員が果たすべき職責について自覚する。				
授業計画	①生涯学習の理念と意義 ②生涯学習施設としての公民館、図書館 ③市民活動と生涯学習 ④社会教育・成人教育：生涯学習とは何か？ ⑤生涯学習職員の職能形成：その手法と実践 ⑥高等教育（大学教育）と生涯教育 ⑦学校教育と生涯学習の接続 ⑧若者問題・雇用問題・職業訓練と生涯学習 ⑨事例検討(1)：実践家の話に聞く ⑩わが国の生涯学習の歴史と政策的展開 ⑪わが国の生涯学習政策と行政の動向 ⑫わが国の生涯学習の特徴 ⑬諸外国の生涯学習との比較・検討 ⑭事例検討(2)：先進的な生涯学習実践から何を学ぶか ⑮生涯学習の今後。少子高齢化・情報化社会と生涯学習 定期試験				
成績評価	毎回の小レポート・小テスト（40%）、最終試験（60%）				

授業・単位数	教育課程論	2単位	学年・学期	2年	後学期
担当教員	○玉利 和弘				
授業概要	学校での教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、歴史的な変遷、新しい教育課程編成の実際等について概説する。その際、教育課程編成の基準となる学習指導要領の意義や変遷を概説し、新学習指導要領のもとでの特色ある学校づくりと教育課程の編成・実施の状況についても調査・研究する。				
到達目標	教育課程の意義やきまり、戦後の変遷について理解し、その上で新しい学習指導要領のもとでの教育課程の編成・実施の概要を理解する。特に、特色ある学校づくりや教育活動を進めている中学校、高等学校における教育課程編成と学校評価の実際について把握し、教育課程編成の方法や教育評価の在り方を認識する。それにより、教育課程編成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業計画	①ガイダンス 教育課程の基準—教育課程の意義、教育課程に関する法令など、教育課程とカリキュラム、両者の概念整理 ②学習指導要領と教育課程の変遷(1)学習指導要領の成立、生活単元から系統学習へ ③学習指導要領と教育課程の変遷(2)教育の現代化と人間性重視の教育への転換 ④学習指導要領と教育課程の変遷(3)ゆとり教育、新しい学力観と「生きる力」 ⑤教育課程の編成及び実施(1)教育課程編成の一般方針、構成要件、編成の手順 ⑥教育課程の編成及び実施(2)教育課程編成の実際、学校経営方針と教育活動 ⑦教育課程の編成及び実施(3)各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等、各教科・科目、総合学習及び特別活動の授業時数等 ⑧教育課程の編成及び実施(4)編成・実施に当たって配慮すべき事項、単位の修得及び卒業の認定 ⑨教育課程の編成及び実施(5)教育課程編成の手順と評価 ⑩教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間と教育課程 ⑪今日の諸問題とカリキュラムの課題・対策(1)キャリア教育、いじめ問題など ⑫教育課程の編成及び実施(2)中高一貫教育、学校間連携など ⑬演習(1)特色ある学校づくりのための教育課程の編成・実施の創意工夫（中学校）、特色ある学校の教育課程の比較検討 ⑭演習(2)特色ある学校づくりのための教育課程の編成・実施の創意工夫（高等学校）、特色ある学校の教育課程の比較検討 ⑮教育課程のまとめと今後の課題、学期末試験				
成績評価	学期末試験（60%）及び小テスト・課題レポート（20%）、学習態度（20%）をもとに総合的に評価する。これら4項目すべてが良好であるとともに出席条件を満たし、100点満点で60点以上を合格とする。				

授業・単位数	理科教育法Ⅰ	2単位	学年・学期	2年／3年・前学期
担当教員	○玉利 和弘			
授業概要	<p>学習指導要領の変遷と理科教育の推移、各種調査からみた日本の児童生徒の理科への意識と態度について確認し、学習指導要領における理科の目標と内容を踏まえながら、これからの理科教育の在り方、理科の授業実践と評価の方法などに関する基本的事項を学習する。</p> <p>授業は、配布資料や参考図書などに基づく一斉講義にとどまらず、学習指導案作成、模擬授業と授業評価、グループ別の課題発表と質疑応答など、実践的かつ研究的な学習活動を行う。</p>			
到達目標	<p>学習指導要領の変遷や学力等実態調査等を学んで理科教育の課題を理解し把握する。その上で、中学校及び高等学校の「理科の教員」として必要な理論的・実践的指導法の基礎力の習得、すなわち基礎的・基本的な知識・技能、論理的な思考力、わかりやすい表現力などを身につける。</p>			
授業計画	<p>①講義ガイダンス：授業計画及びその進め方の説明 理科教育法Ⅰの概説 理科教育の現状と課題－TIMSS・PISA 調査や全国学力調査等の結果から ②理科教育原理1 学習指導要領の変遷と理科教育の推移(1)「試案」(1947年版)から「国家基準」、「現代化」、「ゆとりと充実」(第5次改訂)まで ③理科教育原理2 学習指導要領の変遷と理科教育の推移(2)「個性を生かす教育」から「生きる力の育成」、そして「学力低下への対応」(第8次改訂)へ ④理科教育原理3 学習指導要領と教育課程の編成／教科書との関係／教科書とは ⑤授業実践に向けて1 中学校理科及び高等学校理科の目標と内容 ⑥授業実践に向けて2 学習形態(観察・実験、実習／野外学習／探究活動・課題研究) ⑦授業実践に向けて3 年間学習指導計画／教材研究／学習指導案／授業と評価(1) ⑧授業実践に向けて4 年間学習指導計画／教材研究／学習指導案／授業と評価(2) ⑨模擬授業1 授業実践と評価(中学校1 身近な物理現象／身の回りの物質) ⑩模擬授業2 授業実践と評価(中学校2 電流とその利用／化学変化と原子・分子) ⑪模擬授業3 授業実践と評価(中学校3 運動とエネルギー／化学変化とイオン) ⑫模擬授業4 授業実践と評価(中学校4 大地の成り立ちと変化／気象とその変化) ⑬模擬授業5 授業実践と評価(中学校5 科学技術と人間／地球と宇宙／自然と人間) ⑭模擬授業6 授業実践と評価(高等学校 化学基礎／生物基礎) ⑮学習指導案の作成及び模擬授業の在り方についてまとめ 学期末試験</p>			
成績評価	<p>学期末試験(60%)及び小テスト・課題レポート(毎回・20%)、学習指導案作成及び模擬授業の取組など学習態度(20%)をもとに総合的に評価する。これら3項目すべてが良好であるとともに出席条件を満たし、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。</p>			

授業・単位数	理科教育法Ⅱ	2単位	学年・学期	2年／3年・後学期
担当教員	○玉利 和弘			
授業概要	<p>すでに履修した「理科教育法Ⅰ」をベースに、中学校及び高等学校の「理科」の教員として必要な理論的・実践的指導法の応用力の習得をめざす。そのため、授業は、理科の基本的な学習指導法と教材研究法について、講義とレポートにより学習する。そして、中学校理科の全分野及び高等学校化学・生物を中心に教材研究、学習指導案作成に取り組み、全員が「模擬授業」を行う。さらに、模擬授業に対する「討論(授業評価)」を行って授業力の定着・向上を図る。</p>			
到達目標	<p>「理科教育法Ⅰ」の学習事項及び、「学習指導要領解説」と中学校及び高等学校理科「教科書」の関係を確認しながら教科書の内容に関する専門的な理解を深め、中学校及び高等学校の「理科」の教員として必要な理論的・実践的指導法の応用力を習得する。</p>			
授業計画	<p>①講義ガイダンス 理科教育法Ⅰの振り返り 理科教育法Ⅱの概説 授業計画・進め方 理科の学習指導法1 生活単元・問題解決学習 小テスト(以下、毎回実施) ②理科の学習指導法2 系統学習と探究学習、学習内容の現代化、仮説実験授業 ③望ましい理科授業の在り方1 - 観察・実験の重要性 ④望ましい理科授業の在り方2 - 日常生活や社会との関わり方の重視、ものづくりの取組 ⑤中学校学習指導要領解説と教科書の関係：学習指導案の作成1 ⑥高等学校学習指導要領解説と教科書(物理・化学)の関係：学習指導案の作成2 ⑦高等学校学習指導要領解説と教科書(生物・地学)の関係 学習指導案の作成3 ⑧教材研究(教科書の内容に関する専門的な理解)1 中学校理科：模擬授業と評価1 ⑨教材研究(教科書の内容に関する専門的な理解)2 高校物理：模擬授業と評価2 ⑩教材研究(教科書の内容に関する専門的な理解)3 高校化学1：模擬授業と評価3 ⑪教材研究(教科書の内容に関する専門的な理解)4 高校化学2：模擬授業と評価4 ⑫教材研究(教科書の内容に関する専門的な理解)4 高校生物1：模擬授業と評価5 ⑬教材研究(教科書の内容に関する専門的な理解)4 高校生物2：模擬授業と評価6 ⑭教材研究(教科書の内容に関する専門的な理解)5 高校地学：模擬授業と評価7 ⑮学習指導案の作成及び模擬授業の在り方についてまとめ 学期末試験</p>			
成績評価	<p>学期末試験(60%)及び小テスト・課題レポート(20%)、学習指導案作成及び模擬授業の取組など学習態度(20%)をもとに総合的に評価する。これら3項目すべてが良好であるとともに出席条件を満たし、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。</p>			

授業・単位数	理科教育法Ⅲ	2単位	学年・学期	3年／4年・前学期
担当教員	○山田 大隆			
授業概要	理科教育法Ⅰ、Ⅱ（必修）のあと応用的能力を高める選択講座として、理科教育の現状と課題や我が国の理科教育について概観する。里山環境や有機農業環境の体験授業、総合的な学習の時間の活用、言語活動と人権教育に関する理解を深めてこの実践力を養う。理科教育の周辺である、理科室・準備室の安全管理と安全指導、地震・津波に対する防災教育、博物館や科学館の活用など理科授業の運営に関し幅広い知識を習得し、授業に生かせるようにする。			
到達目標	①理科教育の現状と課題、我が国の理科教育の変遷、自然体験学習や環境教育を通して、中学校理科教育や高等学校理科教育の在り方に識見をもつことができる。②総合的な学習の時間の活用の仕方や言語活動と人権教育に理解し、適切に対応できる資質を身につける。③理科室と準備室の安全管理と安全指導、防災指導など理科教育の周辺についても幅広い知識を習得し、効果的な授業実践力が習得できるようにする。			
授業計画	①【ガイダンス】 理科教育の目標、教材（中学校理科教科書 中1・中2・中3）啓林館 一冊700円 ②果樹農園の体験教育、里山の体験教育の事前学習 中園ヘルシー果樹園の概況、栗山町ハサンベツ里山の取組 ③中園ヘルシー果樹園「秋の果樹園体験教育」 ④栗山ハサンベツ里山「秋の里山体験教育」 ⑤日本の理科教育（小学校・中学校・高等学校の学習指導要領）教科書研究（中学校理科1年）(1)と模擬授業 ⑥理科授業と指導計画、理科授業と教材研究 教科書研究（中学校理科1年）(2)と模擬授業 ⑦理科授業と指導技術、理科授業の実践 教科書研究（中学校理科1年）(3)と模擬授業 ⑧理科室・準備室の安全管理と安全指導(1)教科書研究（中学校理科1年）(4)と模擬授業 器具や材料の準備、理科室のマナー、理科室での事故への対応、ガラス器具の管理 ⑨理科室・準備室の安全管理と安全指導(2)教科書研究（中学校理科2年）(1)と模擬授業 栓の選び方と穴のあけ方、主な薬品の解説、廃液の処理 ⑩東北地方太平洋沖地震教科書研究（中学校理科2年）(2)と模擬授業 地震の概要、地震発生のメカニズム、津波の物理的側面、地震津波の防災 ⑪博物館や自然観察園及び天文台の活用 教科書研究（中学校理科2年）(3)と模擬授業 授業展開の仕方、授業展開の実践例 ⑫理科視点における総合的な学習の時間活用 教科書研究（中学校理科2年）(4)と模擬授業 考え方、指導上の留意点、5つの視点、授業前の準備、評価の4要素 ⑬理科教育における言語活動と授業改善 教科書研究（中学校理科3年）(1)・(2)と模擬授業 言語活動の何が問題か、言語活動の評価、言語活動と授業改善、OPPシート作成 ⑭人権を大切にする理科教育 教科書研究（中学校理科3年）(3)・(4)と模擬授業 人権教育の方向性、人権を大切にする基本的態度、配慮すべき事項 ⑮理科教育法Ⅲのまとめ			
成績評価	リアクションペーパー(50) 体験学習(20) 教科書研究と模擬授業(30)			

授業・単位数	理科教育法Ⅳ	2単位	学年・学期	3年／4年・後学期
担当教員	○山田 大隆			
授業概要	中学校理科、高校生物の教材を中心に、実験・実習を取り入れた模擬授業を受講者は行き、理科授業に関する理解を深め、実践力を培う。また、自然環境及び観察・実験授業を通して、理科教育の目標、教材の選定、教材研究、指導課程の視点からよりよい授業を実践する。			
到達目標	①理科教育法Ⅲ（選択）に次いで、生徒の状況に応じた授業の展開を研究する。②学習指導案と板書事項を作成、模擬授業を行い授業の合評を通して理科授業の実践力を養成する。③自然環境の事前学習と体験授業及び評価法、生物の観察・実験授業、探究活動の指導力を習得する。			
授業計画	①【ガイダンス】理科教育と自然観（課題学習と課題研究）②模擬授業(1) 学習指導案（略案）、観察と実験の安全指導③模擬授業(2) 学習指導案（略案）、博物館の活用（栗山雨煙別学校）④模擬授業(3) 学習指導案（略案）、北海道の海岸環境と生態系⑤自然災害を知る 地震津波災害、火山噴火災害、気象災害⑥放射線の基礎知識、放射線の身体への影響、【里山環境の教材研究】⑦栗山自然体験教育(1) 教材研究（田植えと魚道作り 体験学習指導案）田植え 魚道作り（体験学習指導案作成、体験授業実践、観点別評価）⑧栗山自然体験教育(2) 田植え 魚道作り 体験授業 田植えと魚道作り（体験学習指導案作成、体験授業実践、観点別評価）⑨忍路臨海実験実習(2) 授業案 棘皮動物の発生過程 ウニ・ヒトデの受精と発生過程、学習指導案の作成と模擬授業⑩忍路忍路臨海実験実習(3) 海岸環境の調査 磯の海岸生態系、生物採集、観察と同定、学習指導案の作成⑪忍路臨海実験実習(4) 海岸環境の調査 プランクトン、海藻の生態と環境、学習指導案と模擬授業⑫果樹農園の体験教育(2) 教材研究（体験学習指導案作成、体験授業実践）搾乳・乳製品・発酵（体験学習指導案を元に体験授業の実践、観点別評価）⑬果樹農園体験教育(1) 中園果樹園の取り組み、事前学習 【教材研究】摘果・摘枝・果実成熟と収穫（学習指導案作成、体験授業実践、観点別評価）摘果・摘枝・果実成熟と収穫、搾乳・乳製品・発酵（体験授業実践、評価）⑭忍路臨海実験実習(1) 海岸の生態系と棘皮動物の発生過程【教材研究】ウニ・ヒトデの生態観察と解剖、採卵と採精、学習指導案の作成⑮理科教育法Ⅳのまとめ・期末試験、報告書の提出【臨海実験実習のまとめ】			
成績評価	リアクションペーパー（30） 模擬授業（10）（含む学習指導案） 臨海実験実習報告書（10） 後期末試験（50）			

授業・単位数	農業科教育法Ⅰ	2単位	学年・学期	2年／3年・前学期
担当教員	○岡島 毅			
授業概要	農業教育の重要性や課題を的確に把握するため、農業科の特色ならびに指導方法や授業計画の立て方等を学習する。あわせて、農業高校の実態や高校生の現状を把握し、教育現場の課題や問題点を解決するための実践的な指導力を身につけることを目的とし、講義や現地見学を実施する。			
到達目標	①教科「農業」の目標を明確に自覚でき、自らが栽培・飼育や加工・調製、販売の技能を備えた農業科教育の指導者となる。②農業教育で人を育てることができる実践力を習得し、生徒や保護者ならびに地域と真摯に対面でき、指導的立場となれるような人材となる。			
授業計画	①授業全体の流れの説明 聴講学生各自の自己紹介（5分スピーチ：時間は聴講学生数による）課題提示：「自分自身の出身高校」調べ ②課題：「自分自身の出身高校」の紹介：各自、5分（時間は聴講学生数による）③教科「農業」の目標と科目の構成 「農業と環境」、「農業情報処理」、「課題研究」、「総合実習」、「プロジェクト学習」、「学校農業クラブ」 課題提示：「自己アピール：好きなこと、得意なこと」④各自提示された課題の発表（ビデオカメラで録画し、SDカードを渡す） 課題提示：「授業らしくするにはどうするか？」⑤授業らしくするには台本：学習指導案、板書、スライド、問いかけ：発問 発問：答えて欲しいことを相手から引き出すにはどうするか？⑥台本：学習指導案の作成⑦～⑭教師役として授業の実践 2～3人／回実施 生徒役からの指摘「良いところ、これを直せば良くなりそうなどところ」⑮まとめ 期末試験			
成績評価	毎回の小レポート（55%）、期末試験（45%）			

授業・単位数	農業科教育法Ⅱ	2単位	学年・学期	2年／3年・後学期
担当教員	○岡島 毅			
授業概要	農業科教員としての資質や品格を高め、生徒や保護者ならびに地域の方々から信頼される人材となるため、講義、実習・演習、現地見学、ならびに教科の指導力向上を目的とした模擬授業を各自が実施する。			
到達目標	①基礎的・基本的な教授法を身につけることにより、教育実習実施時に自信を持って授業を展開することができ、学習することの楽しさを生徒に伝えることができる実践力を獲得する。 ②将来、農業科教員として採用され、教育現場および地域で活躍できる教員となれるような資質を獲得する。			
授業計画	①講義全体のガイダンス、および農業科教育の教育課程の編成について（講義）②教材研究と授業の実践、教科指導の進め方（講義）③学習指導案の作成（講義・実習）④～⑭教科指導と模擬授業（演習） 教師役 2～3人／回実施 生徒役から指摘「良いところ、これを直せば良くなりそうなどところ」⑮全体の総括、および期末試験			
成績評価	毎回の小レポート（30%）、演習への取り組み方（40%）、期末試験（30%）			

授業・単位数	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ 2単位	学年・学期	2年／3年・前学期
担当教員	○太田 眞		
授業概要	①中学校、高等学校生徒の空間的・時間的社会的認識の発達や現代社会の現状認識の形成 ②社会科・地理歴史科における学習指導要領の変遷と我が国の教育課題 ③社会科の目標と教育内容及び指導法		
到達目標	①問題解決学習・系統学習の意味を理解する。 ②我が国の中等教育における「社会科」教育の変遷を把握し、今日の教育課題のいくつかを列挙することができる。 ③社会科各分野の目標・内容及び内容の取扱いを理解し、指導計画作成できるとともに留意点を指摘できる。		
授業計画	①「社会科・地理歴史科教育法Ⅰ」ガイダンス ②教育改革と社会科・地理歴史科教育の変遷 ③中学校社会科改訂の趣旨と要点 ④地理的分野の改訂の要点と目標 ⑤歴史的分野の改訂の要点と目標 ⑥公民的分野の改訂の要点と目標 ⑦地理的分野の内容と内容の取扱い ⑧歴史的分野の内容と内容の取扱い ⑨公民的分野の内容と内容の取扱い ⑩地理的分野の指導と評価の実際 ⑪歴史的分野の指導と評価の実際 ⑫公民的分野の指導と評価の実際 ⑬学習指導案の作成 ⑭学習指導案の発表 ⑮社会科教育と今日的課題		
成績評価	発表・討論・小テスト等を実施し、定期試験は実施しない。		

授業・単位数	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ 2単位	学年・学期	2年／3年・後学期
担当教員	○太田 眞		
授業概要	①中学校、高等学校生徒の空間的・時間的社会的認識の発達や現代社会の現状認識の形成 ②社会科・地理歴史科における学習指導要領の変遷と我が国の教育課題 ③地理歴史科の目標と教育内容及び指導法		
到達目標	①問題解決学習・系統学習の意味を理解する。 ②我が国の中等教育における「地理歴史科」教育の変遷を把握し、今日の教育課題をいくつか列挙することができる。 ③地理歴史科各科目の目標・内容及び内容の取扱いを理解し、指導計画の作成ができるとともに留意点を指摘できる。 ④地理歴史科を中心に行うが、中学校社会の地理的分野・歴史的分野との関連性についても考察することができる。		
授業計画	①地理歴史科教育の歴史 ②地理歴史科の目標と科目編成 ③地理歴史科各科目の改善の要点 ④「世界史A」の内容とその取扱い ⑤「世界史B」(1)：内容とその取扱い ⑥「世界史B」(2)：指導計画の作成と指導上の配慮事項 ⑦「日本史A」の内容とその取扱い ⑧「日本史B」(1)：内容とその取扱い ⑨「日本史B」(2)：指導計画の作成と指導上の配慮事項 ⑩「地理A」の内容とその取扱い ⑪「地理B」(1)：内容とその取扱い ⑫「地理B」(2)：指導計画の作成と指導上の配慮事項 ⑬「模擬授業」(1)：世界史B ⑭「模擬授業」(2)：日本史B ⑮「模擬授業」(3)：地理B		
成績評価	発表・討論・小テスト等を実施し、定期試験は実施しない。		

授業・単位数	社会科・公民科教育法Ⅰ	2単位	学年・学期	2年／3年・前学期
担当教員	○安宅 仁人			
授業概要	<p>中学・高校における社会科・公民科教育の理念を理解し、各科目（社会・現代社会・倫理・政治経済）についての教育内容や教材などの検討を行い、それぞれ科目の中で何が中心的なテーマとなっているのかを確認する。また、近年注目されている市民性教育やキャリア教育の動向を紹介し、その中で社会科・公民科教育が果たす役割についても検討し、社会科・公民科の教員として求められる知識と資質の獲得を目指す。</p>			
到達目標	<p>社会科の歴史的な変遷を理解するとともに、中学社会科ならびに高校の現代社会、倫理、政治経済の教育目標を理解することで、社会科・公民科を担う教育職員に求められる基礎的な理論・知識・技法を身につけるとともに、独力で授業指導案を作成できるようになる。</p>			
授業計画	<p>①公民科の意義：公民教育の理念と歴史 ②公民科カリキュラムの編成原理 ③中学と高校の学習指導要領 ④集団討議：社会科・公民科教育を教える上で必要なことは何か？ ⑤中学「社会」の教材・教育内容の検討 ⑥高校「現代社会」の教材・教育内容の検討 ⑦高校「倫理」の教材・教育内容の検討 ⑧高校「政治経済」の教材・教育内容の検討 ⑨総合的な学習と社会科教育 ⑩法教育、憲法・人権教育と社会科教育 ⑪市民性教育、キャリア教育と社会科教育 ⑫現職社会科・公民科教員による講話 ⑬グループによる模擬授業(1)：指導案の作成 ⑭グループによる模擬授業(2)：グループによる授業実践 ⑮全体の振り返りと教育実習における指導上の注意点</p>			
成績評価	<p>①平常点（授業への積極性）…20% ②授業で提示した課題（小レポート・ワークシート）の提出…40% ③模擬授業の事前準備・実施の内容と、事後評価レポートの作成…40%</p>			

授業・単位数	社会科・公民科教育法Ⅱ	2単位	学年・学期	2年／3年・後学期
担当教員	○安宅 仁人			
授業概要	<p>社会科・公民科教育法Ⅰとくらべて、授業を展開する上で必要とされるより実践的・臨床的な手法を学ぶことを目的としている。社会科・公民科教育についての専門的な知識や技能を基にした授業計画案づくりを行うとともに、社会科の授業の中で用いるグループワークの手法や教材研究の手法についても学習し、後半は模擬授業と相互の意見交換を行い、教員としての授業の実践的な力量の向上を目指す。</p>			
到達目標	<p>社会科・公民科教育法Ⅰで身につけた基礎的な理論・知識・技法を基にしながら、より詳細な教材研究や実践的な教育実践手法を研究することで、教育実習時に教育現場で必要とされる子ども達にとってより効果的な授業を展開できる力を身につける。</p>			
授業計画	<p>①公民科の教育課程編成原理：公民科教育のねらいの再確認 ②効果的な教材研究(1)：新聞を使った教材の開発 ④効果的な教材研究(2)：映像を使った教育の開発 ⑤授業計画案づくりと模擬授業：グループによる授業計画案の策定 ⑥授業計画案のプレゼンテーションと検討 ⑦模擬授業：中学社会（政治的分野） ⑧模擬授業：中学社会（経済的分野） ⑨グループ討議(1)：授業計画案の再検討 ⑩模擬授業：現代社会（高校） ⑪模擬授業：倫理（高校） ⑫模擬授業：政治経済（高校） ⑬近隣学校の社会科・公民科の授業見学 ⑭グループ討議(2)：効果的な授業に必要なものは何か ⑮指導案作成・模擬授業の実践を通じた反省。今後の教育実習に向けての改善点の確認※模擬授業の実践について、相互の意見交換を可能な範囲で行う。</p>			
成績評価	<p>模擬授業の事前準備（20%）、当日の模擬授業の実施（60%）、DVD観察後の事後レポートの提出（20%）</p>			

授業・単位数	道徳教育指導論	2 単位	学年・学期	3 年 ・ 後学期
担当教員	○日下部憲一			
授業概要	a. 学校教育の中核となる道徳教育の歴史と現状及びその役割や重要性等について学習する。b. 学校における道徳教育の実際について理解するとともに、家庭や地域社会との連携等より充実した道徳教育の在り方について学習する。c. 道徳教育の要である道徳の時間の指導を通して、「生徒一人一人の道徳的実践力の育成を図る」その在り方について学習する。			
到達目標	a. 道徳教育にかかわる歴史的な背景と現状及び道徳教育の実際、様々な課題等について理解できる。b. 道徳の時間の指導において、ねらいに迫り、心に響く道徳授業の在り方について研究を深め、創意工夫を生かした学習指導案を作成することができる。c. 魅力的な道徳教材の開発と発掘に努めるとともに、その効果的な活用について研究を深めることができる。			
授業計画	①ガイダンス・道徳教育の現状と課題（子供を取り巻く現状等） ②道徳教育の歴史（戦前と戦後）及び道徳教育の理論（本質、世界の道徳教育等） ③道徳教育の実際1（道徳の目標と内容及び「私たちの道徳（心のノートの改称）」） ④道徳教育の実際2（道徳の指導計画及び道徳の時間の指導と学習指導案） ⑤道徳教育の実際3（学習指導の多様な展開及び家庭地域社会との連携） ⑥道徳授業の実際1（読み物資料と模擬授業「お母さんのせい求書」） ⑦道徳授業の実際2（読み物資料と模擬授業「バスと赤ちゃん」） ⑧学習指導案の研究と作成1（読み物資料による研究） ⑨学習指導案の研究と作成2（読み物資料による研究結果から指導案作成） ⑩学習指導案の研究と作成3（視聴覚資料による研究） ⑪学習指導案の研究と作成4（視聴覚資料による研究結果から指導案作成） ⑫学習指導案の研究と作成5（新聞資料による研究） ⑬学習指導案の研究と作成6（新聞資料による研究結果から指導案作成） ⑭学習指導案作成のまとめと意見交流（研究発表会） ⑮道徳教育のまとめと展望（授業のまとめと到達度チェック）			
成績評価	定期試験（50%）、課題レポート（30%）、受講態度（20%）			

授業・単位数	特別活動論	2 単位	学年・学期	3 年 ・ 前学期
担当教員	○大西 千郷			
授業概要	今日、各学校には、特色ある教育活動や開かれた学校づくりが求められている。「特別活動」は創意工夫の余地の広い活動領域であることから、特色ある学校づくりや学級・ホームルームづくりに大きな役割を果たしている。この講義では、望ましい集団活動を通して展開される特別活動とはどのような教育活動なのか、特別活動の目標、内容、教育的意義について学ぶとともに、学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導計画、実践・評価の一連の流れを学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領（教育課程）における特別活動の位置づけを説明することが出来る。 ・ 特別活動の指導の教育的・現代的意義や役割について理解し、説明することができる。 ・ 学級・ホームルーム活動の指導案や特色ある学校行事の年間指導計画を作成することが出来る。 ・ 学級・ホームルームの機能を理解し、教師の仕事（業務）と特別活動のかかわりを説明することが出来る。 			
授業計画	①授業のガイダンス：15回の講義内容や学生の到達目標、成績評価方法などについて説明する。②特別活動の成立と歴史の変遷：学習指導要領の改訂の経緯、趣旨、要点について学ぶ。③特別活動の目標と内容：特別活動の教育課程上の位置づけを学習し、教育的意義について考察する。望ましい集団、望ましい集団活動とはどのようなものかを考える。④特別活動の全体計画と年間指導計画の作成(1)：特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画について学ぶ。⑤特別活動の全体計画と年間指導計画の作成(2)：年間行事予定表の作成を通し、全体計画の作成や年間指導計画について学ぶ。⑥学級・ホームルーム活動の進め方と指導のポイント(1)：学級・ホームルームの役割や活動の特質について学ぶ。⑦学級・ホームルーム活動の進め方と指導のポイント(2)：学級・ホームルームの活動内容と担任業務との関係について学ぶ。生徒指導、ガイダンスの機能の充実、キャリア教育の意義について考察する。⑧学級ホームルーム活動の進め方と指導のポイント(3)：学級・ホームルーム活動の指導案の作成を学ぶ。⑨生徒会活動の進め方と指導のポイント(1)：生徒会活動の目標と活動内容を学ぶ。⑩生徒会活動の進め方と指導のポイント(2)：生徒会活動と部活動の関係、生徒会活動の教育的意義などを考察する。⑪学校行事の進め方と指導のポイント(1)：学校行事の目標や内容について中学校と高校の違いと特色について学ぶ。⑫学校行事の進め方と指導のポイント(2)：学校行事の5種類の行事と内容について学ぶ。⑬学校行事の進め方と指導のポイント(3)：特色ある学校行事と年間計画の作成を学ぶ。⑭特別活動の指導体制と教師の仕事と評価：教師の仕事・業務は授業だけでなく特別活動に係る業務が重要なことを学ぶ。評価に当たっては全教師の共通理解と連携が重要であることを学ぶ。⑮特別活動の教育的意義、現代的意義：学校教育における教育的意義と役割についてまとめる。「振り返り」と考えの共有とテストを行う。			
成績評価	毎回の出席シートの提出内容（30%）、講義中の課題、小論文（20%）、テスト（50%）			

授業・単位数	教育方法論	2 単位	学年・学期	2 年 ・ 前学期
担当教員	○大西 千郷			
授業概要	教育方法学は、(1)カリキュラム論、(2)授業研究、(3)教師教育、(4)教育評価、(5)生徒論、などに分かれるが、この講義では、学校教育におけるカリキュラムのあり方と作成法、生徒の学習支援の教師の授業技術構築を中心として、これまで研究された授業研究実績、最近の事例や教材例を示しながら、優れた授業の内容を考察する。			
到達目標	①教育方法の各領域（教育哲学、西洋と日本の教育史、教育原理、発達心理学、学校教育論と授業論、生涯学習論、環境教育、総合的学習論、特別支援教育）について、現代的課題として、知識と技能を獲得する。 ②各国の教育方法、歴史の特徴を現代の教育方法課題と対比して理解する。 ③学校教育の現代的課題と双方向型授業方法技術を理解することを目標とする。 ④生徒指導の現代的課題を教師論の立場で理解する。			
授業計画	①教育方法学の歴史 教育方法学とは何か、その性格と成立過程と発展 ②教育方法学の内容の展開：新教育運動とは何か、行動科学の発展と教育学、認知心理学と教授理論の展開 ③教授理論(1)：授業とは何か、授業の改善と手法 ④教授理論(2)：現代の教授学理論の内容、現代化教授学理論、構成主義教育方法、直接教授と間接教授について ⑤教育課程論(1)：教育課程とは何か、教育課程の構成要素と類型、中学校高等学校における具体例 ⑥教育課程論(2)：教育課程の編成と実施、点検評価と改善 ⑦授業論(1)：授業の目的と授業計画、教授方法のモデルと具体的授業設計、学習指導案の作成と実施、点検 ⑧授業論(2)：教科書の教育的役割、使用目的、検定制度について、教材研究と教材解釈 ⑨授業論(3)：動機付けの意義と方法、授業の集団化と個別化、TTのあり方 ⑩授業技術(1)：教育技術の特質、板書の歴史と意義、技術 ⑪授業技術(2)：教授メディアの種類と活用方法 ⑫授業技術(3)：コンピュータの特性とその教育的利用、コンピュータ教育利用の具体例と将来性 ⑬教育評価(1)：教育評価思想の変遷史、指導と評価の一致、教育評価の目的と意義、影響要因 ⑭教育評価(2)：評価基準と時期による区分、教育統計の意義と利活用 ⑮総括と反省、今後の課題			
成績評価	授業終了後1週間以内に必提出の課題レポート（1課題400字内外）による。			

授業・単位数	教材開発演習（*）	2 単位	学年・学期	4 年 ・ 前学期
担当教員	○吉野 宜彦			
授業概要	情報交流の技術革新、高齢化、少子化、グローバル化などの社会変動により、教育手法や教材作成は、大きな転換期を迎えている。パソコンだけでなくタブレットやスマートフォンを使った遠隔授業、反転授業、オンデマンド学習は急速に広がりつつある。この授業では、教員をめざす学生が最先端のデジタル学習教材の作成に、コストをかけずに取り組めるスキルを学習する。			
到達目標	①デジタル教材の初歩的な作成が出来るようにする。②教材利用の方法、法制度、歴史などの基礎を知る。③LMSの初歩的な利用・履修管理が出来るようにする。④授業とeラーニングとの有機的な実施方法を考察して回答を出せるようにする。			
授業計画	①ガイダンス：ICT時代の学習と教育 体験しよう Mooc、パワーポイント、タブレット、スマートフォン、LMS、moodle、eラーニング問題作成、Scorm、著作権、教材発達史 ②～④デジタルイラスト作成 ⑤～⑥デジタルムービー作成 ⑦～⑧パソコン画面キャプチャーとカメラによる動画教材の作成 ⑨～⑩moodle コースの作成（基礎、ファイル掲示、クイズ、アンケート、レポートボックス、小テスト、問題バンク）、moodle コースの学習管理 ⑪～⑫デジタル教材を利用した授業の作成（パワーポイント、動画、クイズを利用） ⑬～⑭テレビ会議による遠隔・同時双方向授業の実施 ⑮成績管理の技法とICT利用教育の未来（レポート提出）			
成績評価	毎回の課題の提出（60%）、授業への積極的な取り組み態度（20%）、最終発表会（20%）			

授業・単位数	生徒・進路指導論	2単位	学年・学期	2年	・	前学期
担当教員	○須賀 朋子					
授業概要	現在、学校教育では、いじめ、不登校、発達障害、教育相談対象生徒増加など、不適応生徒問題が頻繁に現れている。この中で、教師には生徒指導力の向上が強く求められている。学習・進路指導は広義の生徒指導であると言われるほど、人間理解に基づく生徒指導は幅が広く、対応には専門性が要求される。この講義では、生徒指導の基礎的・基本的事項を取り上げ、実践事例を紹介しつつ、事例研究を中心に在り方と解決方法を考察する。					
到達目標	①教師力の根幹は生徒指導力であり、これは自分の生徒人間観（教育哲学）の内容による。学校教育課題（学術の完成と人間の形成）に加え、現代的教育課題を人間観からとらえ、指導の方向性を考える。②生徒指導のポイントである生徒理解の方法（カウンセリングマインド、エンカウンター、特別支援教育方法）と意義を理解し、知識技能方向性を思索し、身につける。③生徒指導事例の参照ビデオを視聴し、それを自身の教師像から生徒指導事例としてとらえ、主体化する。					
授業計画	①生徒指導の概念と内容。その歴史、定義、目的と内容そして方法 ②教育課程と生徒指導。生徒指導の機能と学校体制、教科・道徳・特別教育活動の指導と生徒指導、家庭教育との連携 ③生徒理解(1)：その領域、目標、内容、学級担任の任務 ④生徒理解(2)：その実際、そのための資料収集と活用 ⑤生徒指導と食の指導：生徒指導での食育指導・健康、自己管理教育の意義、食育基本法の目的と内容 ⑥特別支援教育と生徒指導：その歴史と意義と内容、展開の校内体制作りと学級経営 ⑦集団指導(1)：その意義と形態 ⑧集団指導(2)：集団活動の指導集団の評価と集団指導の観点 ⑨問題行動(1)：その諸形態、動向と予測 ⑩問題行動(2)：その原因、指導と指導事例 ⑪生徒指導と教育法令：在学関係と校則、児童の権利条約、体罰の考え方、公教育の中立性と生徒指導、児童生徒の懲戒 ⑫生徒指導の推進体制：生徒指導の校内組織体制、家庭と地域社会・関係諸機関との連携 ⑬進路指導(1)：その意義と基本原則 ⑭進路指導(2)：進路指導の具体的分野と内容、および計画と実践、職場体験学習の実際 ⑮まとめ 最終試験					
成績評価	最終試験（30%）、提出物（20%）、課題レポート（50%）で評価する。					

授業・単位数	教育相談論	2単位	学年・学期	2年	・	後学期
担当教員	○須賀 朋子					
授業概要	学校現場では非行・いじめ・不登校などの様々な「教育病理」が出現した。それらへの指導として今日、学校における「教育相談」の重要性が高まってきている。本講義では中・高校生を指導の対象として念頭におきながら、「思春期・青年期」「教育病理」「教育相談」の三つをキーワードにして、それぞれの理解を深めながら、教師の相談活動に役立つカウンセリングの基礎と教育相談の技法を実践的に学んでいく。特に今日の生徒たちが抱える実際的な問題への理解だけでなく、これに対する実践的な対応・指導・支援に必要な教師としての資質・能力のあり方と、これからの学校における協働的な「教育相談活動」のあり方を考えていきたい。					
到達目標	将来、中学・高校の教員となるために「思春期・青年期」「教育病理」「教育相談」の基本的な知識と概念を理解し、これからの学校における適切な「教育相談」の指導のための資質と能力を身につける。特に学校現場で実際に出会うであろう様々な「教育病理」について、その問題の理解のために必要な臨床心理学やカウンセリングの知識・理論を身につけるとともに、教師としてどのように実践的な対応・支援ができるのかを、実際的な事例検討や実践的な教育相談の技法を通して考え、学んでいく。					
授業計画	①オリエンテーション：思春期の発達課題と教師の「教育相談」 ②思春期とは何か：境界人とモラトリアム ③思春期の自己形成(1)：第二の誕生と自我のめざめ ④思春期の自己形成(2)：中学生と高校生 ⑤青年期の発達課題：アイデンティティの確立 ⑥青年期の進路選択：大人になるとのこと ⑦「教育病理」の出現と教師の「教育相談」 ⑧少年犯罪：問題の理解と実践的な対応 ⑨「いじめ」の世界：問題の理解と実践的な対応 ⑩「不登校」という選択：問題の理解と実践的な対応 ⑪「発達障害」：問題の理解と実践的な対応 ⑫教師の「教育相談」とは何か？：教師の教育相談活動とカウンセリングの実際 ⑬カウンセリング・マインドと教師の「教育相談」：教師の実践的な相談活動の理論と技法 ⑭スクールカウンセラーと教師の「教育相談」：学校における協働的な相談活動の実際 ⑮これからの学校と「教育相談」のあり方を考える：実践的な事例検討					
成績評価	毎時間の出席と小レポート（50%）および課題レポート（50%）で総合的に評価する。					

授業・単位数	教育実習	3単位／5単位	学年・学期	3年／4年・前学期
担当教員	○安宅 仁人、大西 千郷、岡田 正裕、岡島 毅、玉利 和弘、須賀 朋子			
授業概要	教育実習は、大学の講義及び2～3週間の中・高等学校等における実習によって行われる。事前準備では、教育実習に望む上での注意点、授業を展開する上で必要な点の再確認を行う。実習期間には、受け入れ校の担当教員の指導のもとで、授業観察、参加、実習を行い、実践的なトレーニングを行う。事後指導では、結果報告会を通じて受講生全体で成果を共有するとともに、成果と課題を自己分析しながら今後の学習計画の策定を行う。 教職担当教員が適宜ローテーションにより、教育実習の巡回指導を行う。			
到達目標	教育実習に臨むに当たり、教育現場で求められるマナー、姿勢、熱意の再確認を図るとともに、模擬授業等を通じた学習指導力の獲得の徹底を図る。教育実習期間は、生徒を前にした授業を展開する力はもとより、生徒や教職員とのかかわりの中で、コミュニケーション能力の獲得を図る。また、教育実習終了後には各自が成果と課題を客観的に分析する機会を設けることで、教育職員に求められる自己研鑽の力を身につける。			
授業計画	①教育実習の実際と指導計画の作成についての指導と注意点 (i)教務ガイダンス (ii)履修カルテの記入と教育実習に臨むうへの課題設定 ②教育実習に臨む前の留意点 ハラスメントをしない、受けないために必要なこと 教育実習日誌の記入上の注意点 ③～⑧模擬授業 (1)～(6) (教科別) あらかじめ作成した実習予定科目の指導案にしたがって、模擬授業等を行う。実習校における指導教科・科目の授業を想定し、授業の構想、指導計画等について実際の授業にそくしながら各教科に分かれて担当の教員が指導する。⑨～⑬教育実習巡回指導のため授業はなし ⑭教育実習を振り返って (1)成果報告会 (教育実習の成果と今後の課題) ⑮教育実習を振り返って (2)(i)各教員からの講評 (ii)まとめのレポート作成と提出 また、教職担当教員が適宜ローテーションにより、教育実習の巡回指導を行う。			
成績評価	以下の項目を所定の評定基準に従って総合的に評価する。 ①実習校評価 (70%)、②模擬授業 (10%)、③レポート提出 (10%)、④事後指導 (10%) ※出席回数 (学内実施分) が所定の回数 (5分の4) を下回る場合、単位を認定しない。			

授業・単位数	教職実践演習 (中・高1免)	2単位	学年・学期	4年・後学期
担当教員	○安宅 仁人、山田 大隆、大西 千郷、岡田 正裕、岡島 毅、玉利 和弘、須賀 朋子			
授業概要	この授業は受講生による相互デスカッション、教科指導に必要とされる指導案作成と模擬授業、生徒指導に必要とされる場面での指導力 (ロールプレイ)、各種研究力の向上を通じ、教育現場で必要とされる知識と技能、コミュニケーション能力の獲得を目指す。また、学校現場参観や現職教員の講話を通じて教師としての使命と子どもの実態についての理解を深め、もって教育職員としての実践的力量的の向上を目指した総合的なプログラムを展開する。			
到達目標	これまでの教職課程を振り返り自身の成果と課題を分析することで、課題克服のための実践的な知識と技能を獲得するとともに、今後教育関係者として職務を遂行する上で必要とされる①使命感や責任感、教育的愛情等、②社会性や対人関係能力、③生徒理解や学級経営に関する力量、④教科内容等の指導力、⑤プレゼンテーション資料の作成及び報告に関する能力の獲得を目指す。			
授業計画	①オリエンテーション：履修カルテを用いた教職課程の振り返り、担当教員によるコース内容紹介と希望調査 ②クラス分け調整結果の公表、今後の進め方についての各コース別打ち合わせ ③～⑫以下のテーマを選択し、各コースに分かれて受講する。 (1)「授業力」向上コース：指導案作成、教材研究、模擬授業の実施を中心として、授業の展開に必要とされる力の獲得を目指す。 (2)「コミュニケーション力」向上コース：教科 (学習) 指導、生徒 (生活) 指導、進路指導、家庭・外部機関との連携、特別支援教育、カウンセリング論についての事例検討とロールプレイングの実施を通じて、コミュニケーション能力の獲得を目指す。 (3)「研究力」向上コース (自然科学/社会科学分野)：学校、教育委員会、農業関連施設等をフィールドとした調査・研究・報告書執筆を行い、研究を進める上で必要とされる方法を学ぶ。 ⑬活動報告会(1) ⑭活動報告会(2) ⑮活動報告会(3)および振り返りとまとめ			
成績評価	各課題への参加状況 (40%)、活動報告 (30%)、最終レポート (30%)			

授業・単位数	職業指導Ⅰ（農業）	2単位	学年・学期	3年 ・ 前学期
担当教員	○岡田 正裕			
授業概要	学校教育における進路指導は個々の生徒の職業的発達を促進する教育活動であり、社会の変化、生徒の進路多様化にともない一層重要である。本講義は、進路指導の今日的意義、指導の方法職業適性の理解など広く基礎的な事項とともに、農業教育の立場から職業観の形成、職業生活設計等について考求し、農業科担当教員としての資質能力を養う。講義としてグループディスカッション、グループ・個人発表、地域との連携等を行いサービスラーニングの手法を身につける。			
到達目標	①演習に必要な資料等の事前準備と終了後のまとめができる。 ②効果的な演習時間の配分ができる。 ③レポートが適切に作成できる。			
授業計画	①オリエンテーション：自己紹介、他人紹介 ②職業指導の成立：大人と子供、日本人の職業、職業指導の必要性、職業教育と職業指導 ③学校教育と職業指導：職業と教育（職業指導の視点）、学校教育への導入、進路指導の意義、個人面接、集団討論の手法、ブラック企業、就労環境 ④職業指導の理論と歴史：コミュニケーション能力の手法、労働者の権利 ⑤職業的選抜と能力主義：産業の発達、雇用システムの変化、グループディスカッション、職業指導演習 ⑥学歴社会の職業的社会的化：職業観形成の要因、個性的発達の助長、PIAAC、ブレンストーミング法、職業指導演習 ⑦職業指導の方法・技術：自己実現、プロジェクト学習法(1)、意義と目的、その活用法、職業指導演習 ⑧職業指導の方法・技術：プロジェクト学習法(2)、学習法の実際、発表、職業指導演習 ⑨学校における職業指導の実際：職業と職業観・勤労観の意義と目的、職業と仕事、職業観、勤労観 ⑩主な外国の職業教育の現状：これからの職業指導 ⑪職業観・勤労観の実際(1)：デュアルシステム ⑫職業観・勤労観の実際(2)：ボランティア学習、職業指導演習 ⑬職業観・勤労観の実際(3)：ボランティア学習 ⑭外部講師講話：教育現場における職業観・勤労観指導の実践 ⑮現代社会と進路指導の課題（総括）			
成績評価	課題論文（50%） レポート（30%） 意欲・態度・発表（20%）			

授業・単位数	職業指導Ⅱ（農業）	2単位	学年・学期	3年 ・ 後学期
担当教員	○岡田 正裕			
授業概要	学校教育における進路指導は個々の生徒の職業的発達を促進する教育活動であり、社会の変化、生徒の進路多様化にともない一層重要である。本講義は、進路指導の今日的意義、指導の方法、職業適性の理解など広く基礎的な事項とともに、農業教育の立場から職業観の形成、職業生活設計等について考求し、農業科担当教員としての資質能力を養う。講義としてグループディスカッション、グループ・個人発表、地域との連携等を行いサービスラーニングの手法を身につける。			
到達目標	①学生個人の意見や考えをまとめ、相手に分かりやすく説明や発表ができる。 ②効果的な演習時間の配分ができる。 ③レポートが適切に作成できる。			
授業計画	①オリエンテーション：自己紹介、教育現場における指導力を高めるために必要なこと ②職業指導の成立：職業指導の必要性、職業教育と職業指導 ③学校教育と職業指導：学校教育への導入、進路指導の意義、個人面接、集団討論の手法 ④職業指導の理論と実践(1)：職業への適応、就職後の不適応の問題、コミュニケーション能力の手法 ⑤職業指導の理論と実践(2)：産業の発達、雇用システムの変化、グループディスカッション ⑥職業指導の理論と実践(3)：職業観形成の要因、個性的発達の助長、ブレンストーミング法 ⑦プロジェクト学習法(1)：意義と目的、その活用法 ⑧プロジェクト学習法(2)：学習法の実際、発表 ⑨職業と職業観・勤労観の意義と目的：職業と仕事、職業観、勤労観 ⑩職業観・勤労観の実際(1)：インターンシップ ⑪職業観・勤労観の実際(2)：デュアルシステム ⑫職業観・勤労観の実際(3)：ボランティア学習 ⑬職業観・勤労観の実際(4)：ボランティア学習 ⑭外部講師講話：教育現場における職業観・勤労観指導の実践 ⑮現代社会と進路指導の課題（総括）			
成績評価	論文（50%） 試験（30%） 意欲・態度・発表（20%）			

授業・単位数	教職インターンシップⅠ（＊） 4単位	学年・学期	3年 ・ 前学期
担当教員	○岡島 毅、大西 千郷、岡田 正裕		
授業概要	<p>酪農学園大学附属とわの森三愛高校との高大連携事業として展開されている「アグリトライ」を本科目の一環として位置付け、教職に特化した職場体験を実施して生徒と接する現場で必要とされるスキルを修得し、その力量を高める。</p> <p>「アグリトライ」では農業科関連の「野菜」分野の教育指導を体験し、その事前の準備（教材研究と指導案作成等）と事後の小括（実施報告書およびレポート）を必須とする。</p> <p>並行して、「健土健民入門実習」の指導補助を実施することにより、農業科関連の「家畜」関連分野に関わる教育指導を体験し、あわせて農業機械および食品加工関連分野の教育指導を体験する。</p> <p>さらに、休日を利用した学外農家研修を実施し、農業の現場を体験する。</p>		
到達目標	<p>農業科に関連する教育分野において、計画的な授業（および実習）展開が実施できる。その実践のために必要とされる教材作成や教材研究ができ、あわせて指導内容を的確に記載した指導案を作成できる。それにより、生徒主体の学習を補助することができるようになる。生徒や保護者ならびに地域住民と円滑に接するために必要とされるコミュニケーション能力を向上させる。</p>		
授業計画	<p>①本科目全体のガイダンス、および「アグリトライ」関連のガイダンス ②～⑦「アグリトライ」での「野菜」関連分野の授業・実習実践 および「家畜」関連分野の授業・実習実践 ⑧全体の小括 ⑨～⑭「アグリトライ」での「野菜」関連分野の授業・実習実践 および「家畜」関連分野の授業・実習実践 あわせて、「農業機械」関連の実習実践 ⑮全体の総括 期間中、休日を利用した学外農家研修 週2回で、履修学生を2班に分割して実施（初回ガイダンス時に、詳細資料を配布する。）</p>		
成績評価	各回の取り組み状況（40％）および実施報告・レポート（40％）、最終レポート（20％）		

授業・単位数	教職応用演習Ⅱ（＊） 2単位	学年・学期	3年 ・ 後学期
担当教員	○玉利 和弘、岡島 毅、安宅 仁人、大西 千郷、岡田 正裕		
授業概要	<p>すでに履修した「教職応用演習Ⅰ」の基礎の上に、教育の理念、生徒の発達、教育制度、学校経営などの「教職教養」、並びに教科教育法などの「指導法」に関する発展・応用を学習する。授業は、一斉講義により、教員としての知識・技能の定着を図るとともに、グループ討議やグループワーク、事例研究の発表なども随時実施しながら実践力や応用力を養成する。</p>		
到達目標	<p>教育の目的や方法、生徒の成長・発達、教育の制度、学校の管理・運営などに関する知識・技能を基盤として、教職とりわけ中学校及び高等学校の教員に求められる教科指導法、生活指導法、キャリア教育・職業指導法、学校の管理・運営、学級経営などの実践力を身につける。</p>		
授業計画	<p>【奇数回】第1～29回 ○ガイダンス、学校に期待される役割、教員に求められる資質能力等の確認 ○教育の理念：学習指導要領改訂の背景及びねらい、新学習指導要領の趣旨と円滑な実施に向けて、今後の教育の理念とその実現－「教育振興基本計画」など ○学習指導：学力・学習状況等の調査結果の分析と対応、学ぶ意欲の喚起、学習習慣の確立－学習指導の工夫・改善 ○道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動の目標と指導計画、指導の在り方 ○生徒指導：学習指導要領における生徒指導の目的及び活動内容、『生徒指導提要』における生徒指導の意義と課題－いじめや不登校など今日的課題への対応、教育相談の進め方、人権教育、障害のある児童生徒への対応 ○学校経営：学校評価、教員評価の在り方 ○進路指導：進路指導の現状と課題、中学校・高等学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方 キャリア教育と進路指導一定義と諸活動、効果的なインターンシップ・職業体験のあり方、『高等学校におけるキャリア教育の手引き（文部科学省）』の要点 ○まとめ、学期末試験</p> <p>【偶数回】第2～30回 教科等指導法：○学習指導要領研究、○教科書分析、○教材開発、○学習指導案作成、○模擬授業と授業研究、○授業評価・教科指導試験 ○まとめ演習：学校経営の在り方、教職教養に関する学期末試験</p>		
成績評価	学期末試験（60％）及び小テスト・課題レポート（20％）、グループ討議や事例研究への取組など授業態度（20％）をもとに総合的に評価する。これら3項目すべてが良好であるとともに出席条件を満たし、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。		

授業・単位数	教職インターンシップⅡ（＊）4単位	学年・学期	4年 ・ 前学期
担当教員	○岡島 毅、安宅 仁人、須賀 朋子		
授業概要	学校を含む様々な教育現場の中で、2週間程度の集中あるいは毎週1度の頻度で教育支援活動を実施する。実際に教育支援活動を行うことで、児童・生徒との関わり方を学び、教師をサポートしながら実践力を養う。そして、そのような現場体験を大学での学びにフィードバックし、自己の適性や進路を具体的に見つめることによってキャリア意識を形成する。		
到達目標	教育者としての使命感を醸成し、生徒に対する教育的愛情を涵養する。教科等に関する専門的・実践的指導力を向上させる。実際の教育現場を体験することで、学級・学校運営に必要とされる判断力や・実行力を身につける。		
授業計画	概ね5月から12月にかけて、近隣の市町村教育委員会、小中学校、中等教育学校、特別支援学校などとの連携により、2週間連続で実施する短期連続型あるいは毎週特定曜日に実施する長期型の形態で、インターンシップを実施する。 詳細は事前のガイダンスで説明し、調整する。		
成績評価	毎回の実施報告・レポート（60％）および最終レポート（40％）		

授業・単位数	サービス・ラーニング（＊）2単位	学年・学期	2年・前・後学期（集中）
担当教員	○安宅 仁人、岡島 毅、須賀 朋子		
授業概要	事前学習において地域や学校の抱える課題を積極的に発見し、その問題の解決を志向したボランティア活動等の主体的な実践を通して、地域の発展と自己の成長を目指す。		
到達目標	地域課題の掘り起こしをすることで地域ニーズを把握する力を身につけるとともに、ボランティア活動等の実践活動を通して市民・社会人としての責任感の醸成を図る。		
授業計画	※事前ガイダンスを「教職コース生初回ガイダンス」の中で実施するので、受講希望者は必ず事前ガイダンスに参加すること（日時・場所は追って通知する）。 ①事前学習(1)：サービスラーニングとは何か ②事前学習(2)：とわ塾事前ガイダンス ③～⑦とわ塾活動 ⑧中間評価 ⑨～⑪土曜教室企画・準備 ⑫～⑬土曜教室実施 ⑭自己評価・成果報告準備 ⑮自己評価・成果報告ポスター発表 ※上記のボランティア活動については、合計30～50時間を目安に活動を行うこと。		
成績評価	事前学習活動（30％）、自己評価（20％）、成果報告資料の作成と提出（50％）		

*：教職コース専攻教育科目（その他の付記科目も同様）